

病態制御医学講座 脳神経内科学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	西山 康裕	令和7年1月～
准教授	濱野 忠則	平成2年6月—平成3年3月，平成9年7月—平成9年8月，平成10年4月—平成11年3月，平成12年4月—平成16年3月，平成16年4月（留学）—平成18年6月，平成18年7月—（平成25年4月—令和7年3月）
助教	榎本 崇一	平成21年4月—平成22年3月，平成24年4月—平成26年5月，平成28年4月—（令和5年4月～現職）
助教	遠藤 芳徳	平成23年4月—平成24年3月，平成26年5月—平成31年3月，令和2年4月—令和7年3月

2. 研究概要

研究概要

脳神経内科は、濱野准教授（診療教授）、山村地域医療推進講座教授、井川地域健康学講座教授、榎本助教、遠藤助教、北崎病院助教をスタッフとして研究に取り組んでいる。1) Arterial Spin Labelling (ASL) 画像を用いた神経変性疾患等に関する検討（放射線医学教室との共同研究）（北崎、井川、濱野）2) サルコペニアに関する臨床研究（山村）3) アルツハイマー病の発症原因の1つであるタウ蛋白のリン酸化および重合機構の解明、ならびに治療薬の開発（Mayo Clinic Jacksonville との共同研究、文部科学省研究班）（濱野、白藤、浅野、佐々木、山口）4) 基礎研究で効果の認められた薬剤を用い、認知機能改善の有無、髄液中リン酸化タウなどのバイオマーカーを用いた検討（勝木、上野、濱野）5) アルツハイマー病早期診断のための血液中アミノ酸分析（新潟大学との共同研究）（白藤、濱野）6) マウス脳虚血モデルを用いたタウ病理所見の進展に関する検討（藤田、佐々木）7) Cerebral amyloid angiopathy related inflammation患者の髄液中アミロイドβ蛋白に対する抗体の検出（白藤）8) 野生型αシヌクレインを発現する神経系細胞（3D5 cell）を用いたαシヌクレインのリン酸化、重合に関する検討（Mayo clinic Jacksonville との共同研究）（榎本、濱野）9) 福井大学物忘れ外来データベースを利用した臨床研究（福井大学2010167）（上野、林広美、林浩嗣、濱野）10) 福井県認知症検診アンケートデータを用いた解析、かかりつけ医に対する研修成果の解析（福井大学2010167）（上野、濱野）11) 神経筋疾患の筋MRI所見の検討（高久、白藤、林浩嗣、濱野）など幅広く研究を行っている。

キーワード

橋本脳症、ミトコンドリア病、脳血管障害、ROS、パーキンソン病、ALS、アルツハイマー病、筋MRI

業績年の進捗状況

タウ蛋白細胞モデルを用いて、Syk阻害薬にタウ蛋白のリン酸化および重合を抑制する効果があることを明らかにし、山口智久先生が学位を取得いたしました。なお、Spleen tyrosine kinase (Syk) は、福井医科大学（当時）で山村博平先生（山村修先生のご尊父）の研究室で、ブタ脾臓の抽出物から単離された非受容体型チロシンキナーゼであり、IgE受容体活性化を介したマスト細胞のヒスタミン放出やサイトカイン産生、マクロファージのファゴサイトーシス、破骨細胞の活性化、B細胞の分化や活性化に必須の役割を担っていることが示されています。このSykに対する阻害薬は近年、特発性血小板減少性紫斑病に対して臨床応用されるようになり、アルツハイマー病に対するアミロイドβの次のターゲットとして注目されている“タウ蛋白”を標的とした治療薬の開発につながる成果だと考える。第65回日本神経学会学術大会では山口医師のSyk研究の発表が優秀ポスター賞を受賞した。またスタチン研究は学生・研修医セッションで最優秀ポスター賞を受賞した（学生山本、濱野）その他、日本神経感染症学会、日本神経免疫学会、日本頭痛学会、日本脳循環代謝学会などで発表を行った。また、福井大学医学部にて第14回日本神経病理学会 東海北陸地方会を主催し、一般演題としては11演題で、脳性麻痺・知的障害の剖検例で脳の“前障”が欠損していた脳形成異常が証明された症例や、臨床診断ではアルツハイマー型認知症であったが剖検するタウオペーター（嗜銀顆粒病、primary age-related tauopathy）であった症例、あるいは進行性核上性麻痺とされていた症例が病理学的には筋萎縮性索硬化症／前頭側頭葉変性症（TDP-43 proteinopathy）であった症例、さらには104歳の剖検例などの発表を行った。

特色等

脳卒中、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経common diseaseからALS、ミトコンドリア病、大脳皮質基底核変性症をはじめとする神経難病の病態と治療に関して、遺伝子、プロテオミクス、培養細胞を用いた基礎的研究から、PETやMRIを用いた患者の病態解析、そして疫学研究まで幅広い研究を行っている。また、臨床地域連携の構築などの医療システムに係る研究も行っている。

本学の理念との関係

本学医学部の理念は、国民性、国際性、先進性、倫理性に基づいた医療の具現化と将来性を見通した研究の実行と人材育成である。担当する疾患対象領域は、まさに国民病といえる疾患である脳卒中、認知症、神経難病などを主として取り扱っており、国民の健康の保護と増進の為に診療、研究を行っている。また国内の大学および国外の大学研究所 (MIT、Mayo Clinic) との共同研究および人材交流も行っており、研究では世界に先駆け新しい事実を明らかにしている。これらの研究を通して国際的に通用する先端医療の開発を目指し、さらには国民全体の健康増進に貢献することを目標としている。

3. 研究実績

区分		編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
		2018～2023年分	2024年分	2018～2023年分	2024年分
和文原著論文	ファーストオーサー	0	0	—	—
	コレスポンデングオーサー	0	1	0(0)	5.1(5.1)
英文論文	コレスポンデングオーサー	0	1	0(0)	5.1(5.1)
	その他	0	1	0(0)	1.5(1.5)
	合計	0	2	0(0)	6.6(6.6)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

24001

Tokuharu Tanaka, Hidenori Onishi, Masaki Kiyono, Yuki Miyazaki, Azusa Tanaka, Akihiko Tanizawa, Tadanori Hamano, Hiroyuki Hayashi, Koji Kobayashi, Osamu Yamamura: Does the Number of Turns during Sleep Have Utility in the Early Detection of Parkinson's Disease and Its Related Disorders?, JMA Journal, 7(4), 553-561, 202410, DOI: 10.31662/jmaj.2023-0204, #1.5

24002

Yamaguchi T, Hamano T, Sada K, Asano R, Nicholas M, Kanaan, Sasaki H, Shu-Hui Yen, Kitazaki Y, Endo Y, Enomoto S, Shirafuji N, Ikawa M, Yamamura O, Fuzita Y, Aoki K, Naiki H, Morishima M, Saito Y, Murayama S, Nakamoto Y,: Syk inhibitors reduce tau protein phosphorylation and oligomerization, Neurobiology of Disease, 201, 106656, 20241015, DOI: 10.1016/j.nbd.2024.106656, #5.1

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

d. その他研究等実績（報告書を含む）

- e. 国際会議論文
- (3) 和文：著書等
 - a. 著書
 - b. 著書（分担執筆）
 - c. 編纂・編集・監修
- (4) 和文：論文等
 - a. 原著論文（審査有）
 - b. 原著論文（審査無）
 - c. 総説
 - d. その他研究等実績（報告書を含む）
 - e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

- (1) 国際学会
 - a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
 - d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他
- (2) 国内学会（全国レベル）
 - a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
 - d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他
- (3) 国内学会（地方レベル）
 - a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
 - d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他
- (4) その他の研究会・集会
 - a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
 - d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額	
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額	

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

業績一覧

学会の名称	役職	氏名
-------	----	----

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
-----------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長（主査）・委員 の別	氏名	査読編数
----------	-------	------------------	----	------

(E) その他

24003

ふくいのドクター相談室 Q遺残海馬溝によって記憶喪失？ A病的な意味なし、他に原因か 榎本崇一・福井大医学部附属病院脳神経内科助教（福井新聞），20241219

6. 産業・社会への貢献

(A) 国・地域等への貢献

(1) 審議会・委員会・公益法人・会社等への参加状況

区分	機関の名称等	委員会の名称等・役割	氏名	期間
----	--------	------------	----	----

(2) 社会人等への貢献及び学校等との連携・協力による活動

区分	活動名・活動内容	主催者・対象者等	氏名
----	----------	----------	----

(B) 国際貢献

国際協力事業

活動名・活動内容	氏名	相手方機関名	役割	期間	活動国名
----------	----	--------	----	----	------

(C) その他業績

(D) 特記事項